

# 貝印株式会社における デザイン開発とデザイン保護の取り組み

貝印株式会社 取締役 上席執行役員 知財・法務本部長 CIPO 兼 CLO 地曳慶一  
知財・法務本部 知的財産部 兼 知財・法務本部 法務部 次長 松田直大

## 1 当社の概略

約 800 年の伝統を持つ刃物の町、岐阜県関市で誕生した当社は、ポケットナイフを製造する会社として事業を開始し、来年で創業 115 周年を迎える刃物総合メーカーです。国産初の使い捨てカミソリ、国内シェア 60% 以上のツメキリなどのビューティーケア用品、刀鍛冶の流れを汲む包丁「関孫六」を含む家庭用品・製菓用品、世界約 90 カ国以上にて流通している使い捨てメス等の医療用刃物など、その

商品ラインナップは多岐に渡り、“世界で唯一の刃物総合メーカー”を自負しています。海外展開を積極的に行い、米国をはじめ、欧州、中国、ベトナム、韓国、インド等に製造・販売拠点をもち、グループ全体売上の 50% が海外からの売上になっています【写真 1】。

### 1) 「デザイン経営」を地で行く商品開発方針「DUPS」

当社では、D = Design、U = Uniqueness、P = Patent (able)、S = Story & Safety の頭文字をとって「DUPS」という商品開発方針を採用しています。この基準は、1998 年に、創業家三代目社長（現会長）によって掲げられた「UPS」の概念に、2010 年頃、さらに「D」を追加して「DUPS」として長年大切に守られている方針です。この「DUPS」というコンセプトを起点に、実用品としての誠実さと堅実さを軸にしつつも、デザイン性が高く (D)、かつ、特許が獲得できるほどにオリジナル性も高く (U, P)、さらには暮らしの中の困ったことに対処するストーリー性や安全性 (S & S) をも重視した商品を開発することを実践しています。殊に、日本では、2003 年に知財立国宣言がなされ、また、2018 年のデザイン経営宣言、そして昨今では「モノづくりからコトづくり」「ナラティブビジネス」など各所で叫ばれていますが、それらを全て統合したような“商品開発哲学”を、実に、30 年以上前から掲げ、実行している点は、時代を先取りした経営者の先見性の高さを裏付ける方針であるとして、各方面より高くご評価いただいています。平成 31 年度には知

●写真 1

左／本社（東京）右／創業は清流豊かな関市 下／製造工場

